



箏(こと)について |
和楽器教室に向けて

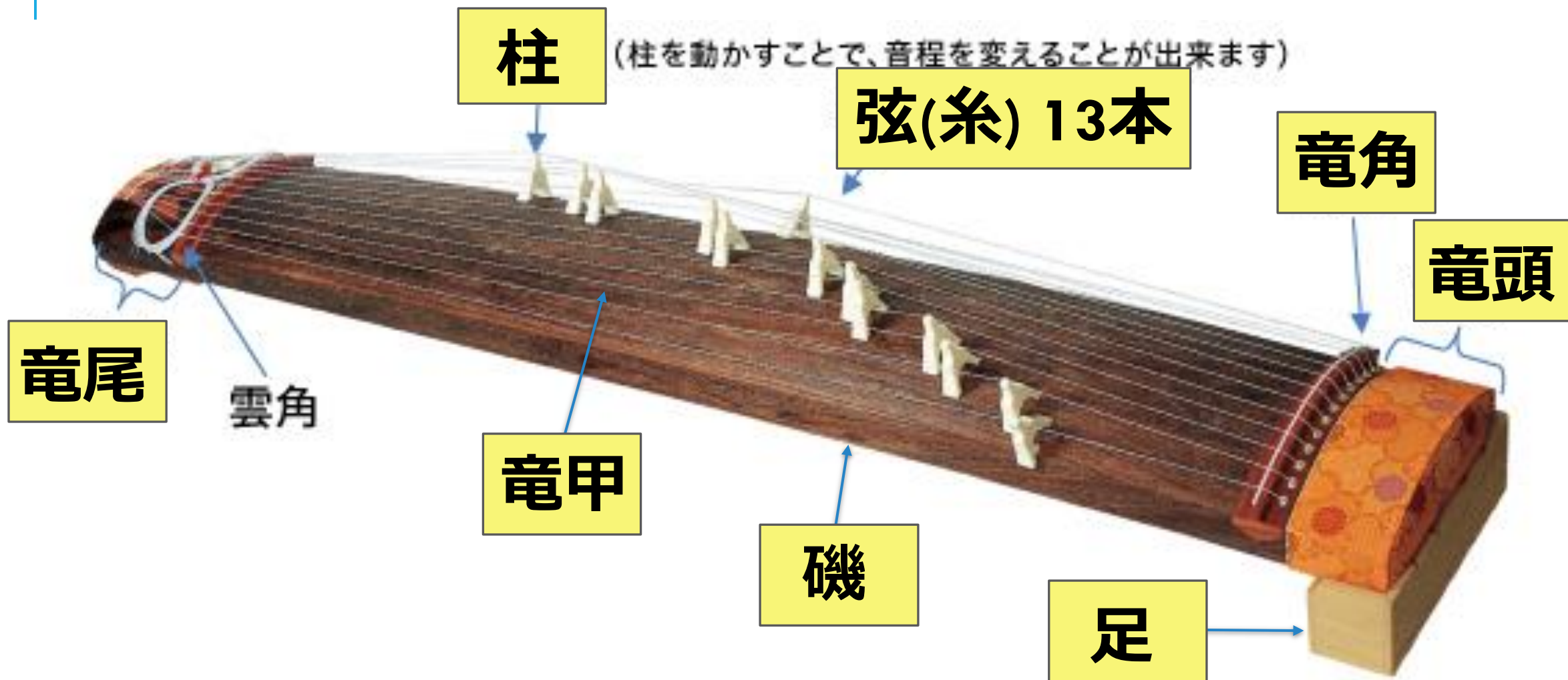
1. 箏（こと）とは

- 箏は、**奈良時代**に**雅楽**の楽器として、**唐**（今の中国）から伝来した楽器。



- 箏全体を**竜**の姿にたとえ、各部には**竜頭**や**竜尾**といった名称が付けられる。

2. 各部の名称



3.
13本



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
斗 と
為 い
巾 きん

4. 柱の立て方

※立てたまま
スライドさせない！

・ 弦を右手で持ち上げ、左手で
竜甲と糸の間に立てる。

・ 1の弦に立てる柱は、
磯にまたがるように立てる。

・ 巾の弦には「**巾柱**」という特別な柱を
磯にまたがるように立てる。



5. 爪のつけ方



- 右手につける爪には
角爪(生田流)と**丸爪(山田流)**がある。
- 親指、人さし指、中指につける。
- 右手の指番号は
親指① 人さし指② 中指③ 薬指④
- 自分の爪と反対にくるようにはめる。

6. 箏の調弦法

調弦 ・ ・ チューニングのこと。

音程を**柱の位置**で調節する。

音程はチューナーを使って確認する。

- 基本的な調弦法は**平調子**。
- 基準となる音程は、合奏する楽器の種類や歌う声の高さなどに応じて変えることができる。

平調子

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 斗 為 巾
ミラシドミフアラシドミフアラシ

7. 姿勢とかまえ方

- 右手側に**竜頭**。
- 箏に対して**斜め左向き**に座る。
- 左手は**柱より奥**にそえる。



角爪の場合



丸爪の場合

8. 親指の使い方

- 爪で上から押さえるように弾く。
- 竜角から2～3 cm離れたところを弾く。
- 弦に対して、爪は**45度**くらい。
- 手首を安定させるために、薬指を親指で弾く弦の**3～4本先の弦**にあてる。
- 弾いた後は、親指を次の弦にあてて止める。

9.

器樂の教科書
p 35

かへる

十	は	五	あ	五	み	七	さ
斗	く	四	さ	四	た	、	く
巾	ど	五	ひ	五	た	八	ら
斗	か	六	に	六	す	◎	
十	り	五	に	五	か	七	さ
◎		五	お	五	ど	、	く
◎		四	い	四	い		
		三	う	三	り	八	ら
		◎		◎		◎	

◎→のばす

○→止める